

シンポジウム **モバイル08** プログラム 7月3日(木)

\*各発表者の持ち時間は29分(話者の交代が1分)です。  
\*ベルは、18分(予鈴)、22分(講演終了)、29分(討論終了)に鳴ります。

第1室		第2室	
10:00~12:00	モバイルと教育 司会:篠原一光(大阪大学)	10:00~12:00	移動中の人間特性 司会:大杉淳(パイオニア株)
1111 機能モデルに基づく携帯電話システムの学習支援法の提案 加藤 悠太, 古川 宏(筑波大学大学院)		1211 自動車運転中のケータイ通話に起因する視空間的処理過程の遮蔽に関する研究 門居 直樹(撰南大院), 川野 常夫, 奥井 直樹(撰大工)	
1112 モバイル e ラーニングの現状分析と利用効果 長谷川 旭, 小橋 一秀, 長谷川 聡(名古屋文理大学)		1212 拡張現実感(AR)を利用した経路誘導情報がドライバ行動に与える影響に関する基礎的研究 古畑 紀子, 大門 樹(慶応義塾大学大学院)	
1113 講義内容の補習を目的としたモバイルラーニングの導入 安藤 明伸(宮城教育大学), 外山 太郎(榊アルク教育社)		1213 予防安全研究・開発用ドライビングシミュレータの開発 名切 末晴(榊豊田中央研究所), 米川 隆(トヨタ自動車株), 坂口 靖雄(榊豊田中央研究所)	
1114 携帯電話とタグ付けを用いたノート取得・管理システムの検討 青柳 章大(宮城教育大学大学院), 安藤 明伸(宮城教大)		1214 ヘッドアップディスプレイ視認時および視認後の運転者の注意特性 武田 裕司(産総研), 渡辺 博司, 石井 正樹, 北崎 智之(日産)	
12:00~13:00 昼休み			
13:00~14:00 特別講演 司会:赤松幹之((独)産業技術総合研究所) <b>ネットヘルスケアへの取り組み</b> 日戸 興史(オムロンヘルスケア株)		ホームメディカルケアを事業コンセプトに、当社は1970年代から継続して生活習慣病の予防/改善事業に取り組んでおり、現在では、家庭用健康機器のグローバルメカとして認知されてきた。今後は機器提供だけでなく、ネットヘルスケアをコンセプトに、IT ネットワークを活用した生体情報センシングをベースにした One to One ソリューションに事業を拡大していく。今回は、この考え方に基づいて内外の動向を整理し、我が社の取り組みを紹介する。	
14:10~16:10	生活行動とサービス 司会:岡田明(大阪市立大学)	14:10~16:10	モバイルと情報共有 司会:大門樹(慶応義塾大学)
1121 ドライバーにとって気の利いた情報とは～実走行時の運転者と同乗者の自然な対話の分析調査～ 猿輪要佑, 稲垣和芳, 梶川忠彦(U'eyes Design), 北島宗雄, 赤松幹之(産総研), 北崎智之, 黒田浩一, 丸山泰永(日産自動車株)		1221 モバイル端末向け Flash アプリケーションの開発 加藤 正史, 長谷川 旭, 長谷川 聡(名古屋文理大)	
1122 計算論的日常生活理解のためのモバイル情報収集システム 本村陽一, 西田佳史(産総研 DHC), 白石康星, 溝口博(東京理科大)		1222 ケータイ文字メールを利用したスケジュール管理システム 丸田 洋輔, 長谷川 旭, 長谷川 聡(名古屋文理大)	
1123 サービスサイエンス:ビジネスにおける行動観察技術の活用 松波 晴人(大阪ガス株式会社)		1223 歩行者の好みを考慮した感性情報検索法 キムドンハン(蔚山大学), 北島 宗雄(産総研)	
1124 来館者の位置に基づく情報配信システムの提案-つくばサイエンススクウェアにおける適用事例- 山下 倫央(産総研)		1224 カメラ付き携帯電話を利用したグループによる送り火中継における撮影者の傾向 藏野 文子, 宮南 雅也, 鶴本 顕一郎, 加藤康朝(榊ソフトデバイス), 播口 光(株東京糸井重里事務所)	
16:15~17:45	モバイルインタフェース(1) 司会:安藤明伸(宮城教育大学)	16:15~17:45	モバイルユーザ状態の把握 司会:近江政雄(金沢工業大学)
1125 ユーザの行為に合わせて機能が切り替わる携帯電話 八反田亮子(茨城大), 矢内浩文(茨城大), 小林一樹(関学大)		1225 脳内酸化ヘモグロビン濃度変化によるパフォーマンスの推定 橋崎将典, 中村美徳(立命館大学大学院), 萩原啓(立命館大)	
1126 歩行者ナビゲーションを利用した経路探索における不安要因の検討 宇戸 裕人, 古川 宏(筑波大学大学院)		1226 NIRS の高速成分の生理的役割 田村博(田村 HI 研究所), 瀧上美喜, 岡田明(大阪市立大学)他	
1127 モバイル機器上の 3 次元情報空間における投げ動作による効率的オブジェクト移動手法 永友 圭一朗, 村田 和義(京工大情報科学センター), 倉本 到(京工大), 渋谷 雄(京工大情科セ), 辻野 嘉宏(京工大)		1227 携帯電話操作時のフィードバック音が文字入力パフォーマンスと脳活動に及ぼす影響 久芳瑠衣子(茨城大学院), 矢内浩文(茨城大), 小林一樹(関学大)	

18:30~20:00 Evening session ~東京の夜景を眺めながら未来を語る~ ※テレコムセンター21展望台へ会場移動※

■ シンポジウム **モバイル08** ■  
**プログラム 7月4日(金)**

第1室		第2室		第3室								
9:30~12:00	<b>モバイルによる安全と安心</b> 司会: 澁谷雄(京都工芸繊維大学)/境薫(富士通デザイン(株))	9:30~12:00	<b>行動センシングと支援</b> 司会: 松波晴人(大阪ガス(株)) / 川野常夫(摂南大学)	10:30~12:00	<b>モバイルインタフェース(2)</b> 司会: 長谷川聡(名古屋文理大学)							
2111 ケータイで利用する多言語医療対話システム 杉田 奈未穂, 長谷川 聡(名古屋文理大学), 宮尾 克(名古屋大学)	2112 ユニバーサルデザインに基づいた緊急モバイルツール 細野 直恒(沖コンサルテイングソリューションズ(株)), 鈴木 道夫(日本聴覚障害者建築協会), 三樹 弘之(沖電気工業(株)), 富田 豊(慶応大)	2113 子どもたちのケータイ電話利用に関する現状と課題 桑崎 剛(南小国中学校), 木暮 祐一(武蔵野学院大学)	2114 「あんしんグーパス」自動改札が見守る子供の安全 中尾 寿朗, 野地 英昭(オムロン株式会社), 川北 博史(PiTaPa グーパス株式会社)	2115 新しい連絡網のしくみ(多メディア一斉連絡) 住田 典子(株式会社 NTT データ)	2211 モバイルユーザのための超音波と電波による位置推定 中村 嘉志((独)産業技術総合研究所), 小林 亮介(三菱電機), 南 正輝(東京大学), 西村 拓一(産総研)	2212 院内における患者様および医療スタッフの動線の効率化に向けて 竹下 修, 河村 泰弘(日赤医療センター)	2213 歩行者ナビのための自蔵センサモジュールを用いた屋内測位システムとその評価 興梠 正克, 大隈 隆史, 蔵田 武志(産総研)	2214 ウィンカ操作に基づいた経路誘導システムの追加情報呈示に関する基礎的研究 大門 樹(慶應大), 岡田 亮, 田 容旭(慶應大院), 岩崎 守男, 岸 八潮(松下電器産業パナソニックデザイン社)	2215 先急ぎ課題付加時の追越行動の解析 吉田 誠, 和田 隆広, 土居 俊一(香川大学), 朝尾隆 文(関大)	2311 モバイル機器のインターネット接続性の比較 坂本 竜太郎, 富田 寛, 上新内 明香, 丁井 雅美(広島国際大学)	2312 ヘッドホンオーディオ聴取時の外来音に対する聴覚閾値 中野 三郎, 田邊 圭介(武蔵工業大学), 蘆原 郁(産総研), 桐生 昭吾(武蔵工業大学)	2313 モバイル機器の文字入力と比較 -短文の入力速度- 浮田 佳宏, 大塚 正雄, 上新内 明香, 丁井 雅美(広島国際大学)
12:00~13:00		昼休み										
13:00~14:00 <b>特別講演</b> <b>画面表示用ユニバーサルデザインフォントの開発</b> 司会: 宮尾克(名古屋大学) 宮崎 紀郎(千葉大学)		携帯電話やパソコンなど画面上で文字を読むことが多くなってきた。しかし、ここに用いられているフォントは、従来の印刷媒体用文字をそのまま使用しており、読みやすいとはいえない。そこで、従来のフォントデザインの伝統にとらわれない新たな考えを導入し、誰にでも一見して分かりやすく、縮小しても読みやすいユニバーサルデザインフォントを開発した。モバイル時代に対応する新たな考えと、開発したフォントデザインの実際について話す。										
14:10~15:40	<b>ケータイの今そして未来</b> 司会: 池上健男(株)ジェアール東日本情報システム)	14:10~15:40	<b>視機能</b> 司会: 田中成人(オムロンソフトウェア(株))									
2121 ユーザスキルに対応したケータイ知識伝達手法 伊藤 卓朗, 及川 博道, 杉村 武昭, 米川 雄基, 岩崎 匡寿, 西村 邦裕(NPO 知的財産研究推進機構), 西村 由希子, 玉井 克哉(東大先端科学技術研究センター)	2122 モバイルサービスからみた携帯電話機と交通系ICカード 山本 吉伸, 中村 嘉志((独)産業技術総合研究所)	2123 ケータイ社会の未来像の検討~3つの未来~ 西村 邦裕(東大院), 伊藤 卓朗, 岩崎 匡寿, 及川 博道, 米川 雄基, 杉村 武昭(NPO 知的財産研究推進機構), 西村 由希子(東京大学先端科学技術研究センター)	2321 ケータイ画面の可読性評価—文字高さと視覚機能— 大森正子(神女大), 長谷川聡(名文大), 松沼正平(名工大), 宮尾克(名大)	2322 文字検索時の脳内活性—NIRS 高速成分による解析 田村 博(田村 HI 研究所), 大森 正子(神女大), 長谷川 聡(名文大), 藤掛 和広(労研), 丁井 雅美(広国大)	2323 ヘッドマウントディスプレイ上の立体映像への水晶体調節 長谷川聡(名文大), 大森正子(神女大), 渡辺智之(愛知学院大), 高田宗樹(岐阜医科大), 藤掛和広(労研), 市川哲哉, 田原博史, 小室貴弘, 小阪 将也(オリンパスビジュアルコミュニケーションズ), 宮尾 克(名大)							
16:00~17:00 <b>公開講演※</b> <b>ケータイの未来</b> 司会: 木暮祐一(武蔵野学院大学) 夏野 剛(元・株NTTドコモ執行役員/慶應義塾大学)		“携帯電話”は瞬間に社会に浸透し「通信インフラ」として普及を遂げた。“音声通話”が主体だった携帯電話を「情報インフラ」に変えたのが“iモード”である。この頃からもはや電話ではないとばかり「携帯電話」は「ケータイ」と呼ばれるに至った。そして“おサイフケータイ”の登場により、ケータイは「生活インフラ」へと変貌した。iモードを生み出し、おサイフケータイを普及させ、さらにクレジットサービスiD、DCMXなど、ケータイの「生活インフラ」化を主体的に推進してきたのが夏野 剛氏である。夏野氏は、携帯電話業界に関わりだした11年前に、すでに「ケータイがウォレットになる」というイメージを頭の中に描いていたという。では、今後のケータイはどのような方向に向かうのだろうか？ 夏野氏の描く「ケータイの未来」について語っていただく。(木暮)										

※シンポジウム参加者以外は事前申込が必要です。参加費は無料です。